

いしかり砂丘の風資料館 テーマ展



石狩湾と

ウミガメ

展示解説

ウミガメ。

ハワイや小笠原諸島のような
南国の海をイメージするん

じゃないでしょうか。

でも実は、石狩湾にも

やってくるのです。

北国のウミガメの

世界を紹介します！



■おもな展示

- ・アカウミガメ全身骨格
～小樽の海岸に漂着！
あの甲羅のホネは
どうなってる？
- ・アカウミガメ剥製
- ・ウミガメの甲羅に
文字が見える!?
実は酒飲み!?
- ・ウミガメに噛まれた!?
～タートルバイト
- ・ウミガメはなぜ石狩湾へ？

7.18 (土)

～ 8.30 (日)

いしかり砂丘の風資料館

北海道石狩市弁天町30-4 (石狩温泉「番屋の湯」となり)

TEL 0133-62-3711 mail bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>

■開館時間 09:30～17:00 ■休館日 毎週火曜日

■入館料 大人300円、中学生以下無料

共催:小樽市総合博物館



■ウミガメ（海亀）

ウミガメは海中で生活する爬虫類です。甲羅から頭と尾、脚を出しています。陸上や淡水で暮らすカメと違い、4本の脚は鱗になっていて、主に前脚で進み、後脚で舵を取ります。また、頭や脚、尾を甲羅の中に隠すことはできません。歯はなく、クチバシでエビ・カニ、クラゲ、海藻・海草などを食べます。

現在は世界に7種が生息しています。そのうち日本近海には、アオウミガメ、アカウミガメ、ヒメウミガメ、タイマイ、オサガメの5種が生息しています。いずれもIUCN*レッドリストでは絶滅危惧種（CR・EN）に区分されており、日本の「種の保存法」の対象になっています。

*IUCN：国際自然保護連合

アカウミガメ（剥製）

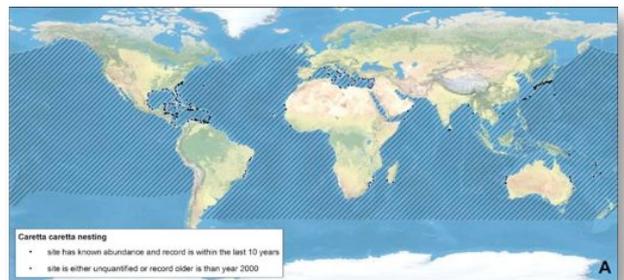
Caretta caretta 爬虫綱 カメ目 ウミガメ科
旧石狩町長室に飾られていたもの。
採集地・採集日：不明



■ウミガメはどこにいる？

ウミガメは、世界中の熱帯～温帯の暖かい海に暮らしています。メスの産卵時だけ上陸し、それ以外は主に外洋を回遊しています。

日本の海では、本州やそれ以南で見られますが、基本的には北海道のまわりの海には生息していません。



アカウミガメの分布図（斜線の範囲）。地図上の「・」は産卵地。（wallace et al., 2010）

■北海道にやってきたウミガメ

しかし、少ないとはいえ北海道でもウミガメが見つかった記録はあります。そのほとんどは、海岸への漂着と漁網への混獲です。

調べてみると、これまでに北海道で41件のウミガメの漂着・混獲の記録があったことがわかりました。太平洋側ではアオウミガメやオサガメが多く、日本海側ではアカウミガメが多い傾向があるようです。

■石狩湾にやってきたウミガメ

石狩湾沿岸での漂着は、いしかり砂丘の風資料館が調査を始めた2004年以降、石狩市で3件のウミガメが確認されています。また、小樽市では1996年に蘭島でアカウミガメの漂着があり、骨格標本として小樽市総合博物館に収蔵されています。

一方、記録が残されている混獲は、これまでに石狩市の南部で1件（1950年）、厚田区で2件（2件とも年代は不明）ありました。すべてアカウミガメです。



北海道のウミガメ漂着・混獲記録（主に1997以降）。
（小林・亀崎，2008；北水研，2012-2015；白井，2014；日本ウミガメ協議会，2015；志賀，2020）



石狩市・小樽市のウミガメ漂着・混獲記録。（★印）

マレーハコガメ（甲の骨）

Cuora amboinensis 爬虫綱 カメ目 イシガメ科
陸生のカメ。ペット用に販売されている種。

2017年11月14日 石狩浜（漂着）





上：
アカウミガメ 直甲長21cm 2007.12.06 石狩浜



右上：
アオウミガメ 直甲長40cm 2014.03.24 無煙浜
(撮影：工藤友紀さん)



右：
タイマイ 直甲長31cm 2014.05.06 石狩浜
(撮影：石橋孝夫さん)

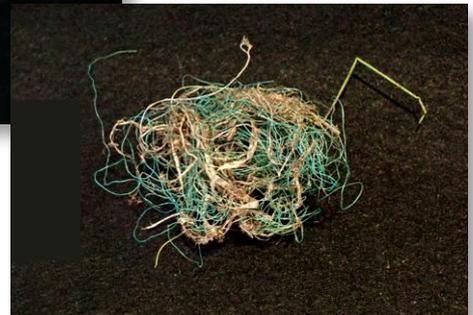


タイマイ (骨・甲板)

Eretmochelys imbricata 爬虫綱 カメ目 ウミガメ科
パネルの写真の個体。漂着して干涸びていた。

2014年5月6日 石狩浜 (漂着)

肉を分解させて骨格標本にするために土に埋めていたもの。若い個体なので骨がしっかり結合しておらず、バラバラになってしまった。タイマイの甲板は、眼鏡フレームや櫛など、鼈甲細工の材料として使われていた。



土から掘り出したとき、背甲の下から見つかったビニールひものかたまり。胃の中にあつた可能性が考えられる。

■ウミガメの骨格

カメの甲羅は肋骨と背骨が変化したものです。板のような鱗の中には、ヒトと同じ5本の指の骨があります。

外見や生活はまったく違うウミガメとヒトですが、骨格は同じようなパーツでできています。爬虫類も哺乳類も、共通の先祖から進化したからです。

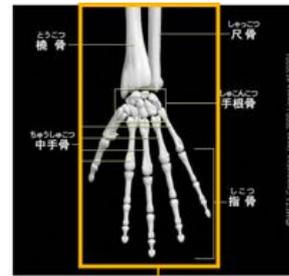
アカウミガメ (骨格)

小樽市蘭島の砂浜に漂着したもの。

採集：1996年頃

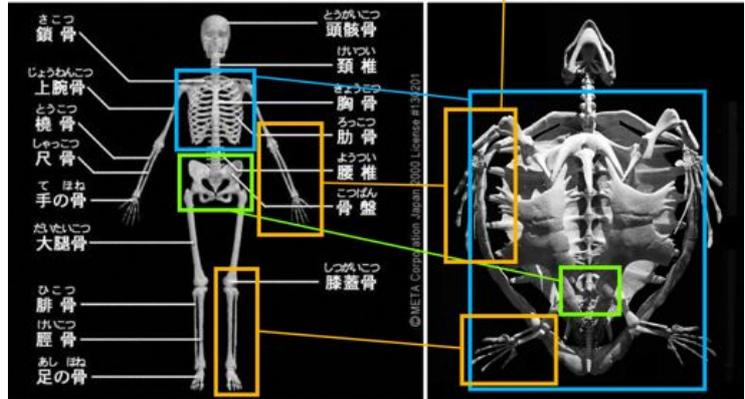
(小樽市総合博物館収蔵標本)

ヒトの指の骨 (拡大)



アカウミガメ骨格

ヒト骨格



■神聖なウミガメ

ウミガメは、世界各地で神聖な生き物とされてきました。ハワイ諸島沿岸に生息するアオウミガメは、先住民が岩石を彫って描いたペトログリフ（岩面彫刻）のモチーフとなっています。

日本では、漂着や混獲による死体が神社に祀られているケースもあります。そもそも亀は長寿と繁栄を招く縁起物として、例えば家紋や屋号にも「亀甲」として使われています。



御神体として祀られているアカウミガメ頭部（石狩市内）。



コースター

ホヌ（ハワイ語でアオウミガメ）のペトログリフを再現。

ハワイ諸島で購入した、おみやげ



醤油

老舗醤油メーカーの屋号「亀甲萬」が描かれている。

■ウミガメに大漁祈願

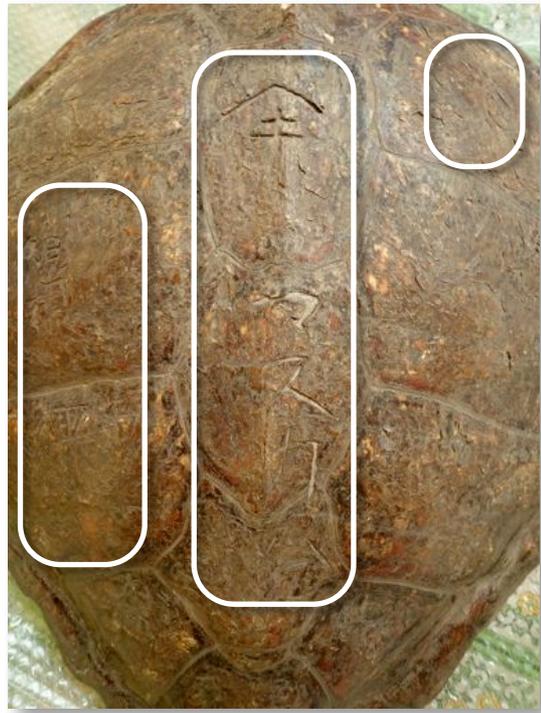
ウミガメに出会うことが少ない北日本などでは、魚の網にウミガメが入ると吉兆とされることがあります。昔は大漁を祈願し、酒を飲ませ*、甲羅に名前を彫ってから海に帰す風習もありました。

厚田村（当時）で混獲され、屋号や名前と思われる文字・記号が彫られて放流されたアカウミガメが、後日、別の海岸に漂着した例もあります。

*現在は、これをしないよう水産庁が指導しています。

厚田村（当時）で放流され、後日漂着したアカウミガメの甲羅。屋号や名前と思われる文字が彫られています（時代は不明）。

「キ」「マスカハ」などの文字が読めますが、厚田の漁業関係者によると、現在、そのような漁業者に心当たりはないそうです。



文字が彫られた甲羅

漁網にアカウミガメが入ったので、大漁祈願のために甲羅に文字を彫って放されたもの。

採集地：厚田村 時代不明



■タートル・バイト

海岸に打ち上がっている漂着物を見ると、刃物で切り取ったような穴があいていることがあります。これらの多くは、動物が噛んだ痕跡です。特に、1～2cmの四角い穴やV字形の傷は、ウミガメがエサと間違えて噛み切ったものと考えられていて、タートル・バイト (turtle: ウミガメ、bite: 噛む) と呼ばれています。

タートル・バイトは、コウイカの甲 (イカの体内の石灰質の殻) や、やわらかいプラスチック容器などに多く見られます。浮遊プラスチックやビニールは、ウミガメがクラゲなどと思って誤食しているのではないかとされています。

*ウミガメではなく、魚や鳥の噛み跡ではないか、という説もあります。

タートル・バイト

turtle (ウミガメ) bite (噛む)。
ウミガメがエサと間違えて噛み切った穴。
採集地: 石狩浜ほか



コウイカ (甲)

石狩湾より南に生息。石灰質の甲を体内に持つ。
甲は軽く、死後は浮く。



漂着プラスチック

タートル・バイトがあるものは、韓国や中国など南から来たものが目立つ。

■暖流が運んでくるもの

ヤシの実やアオイガイなど、暖かい海から暖流によって北海道まで流されてきて、海岸に漂着したものを「暖流系漂着物」と呼びます。これらは石狩湾の海水温が高い年に、たくさん見つかります。

ふだん暖かい海に生息しているウミガメも同じように、暖流が強い年＝海水温が高い年に、北海道までやってくるが増えるのではないかと考えられますが、今のところ情報は少ないため、詳しい関係はわかりません。

しかし、ウミガメが北海道までやってくるのは、もしかしたら気候変動と関係があるのかもしれない。



暖流系漂着物

暖かい海から暖流が運んできた漂着物。
石狩湾の海水温が高い年に多く見られる。
採集地：石狩浜



ココヤシ果実

ヤシの実。ヤシは熱帯の海岸に生育する。
日本本土には自生しない。



アオイガイ

別名カイダコ。熱帯～温帯の海に生活するタコ。
メスが作った貝殻。



いしかり砂丘の風資料館 テーマ展

石狩湾とウミガメ

展示解説

開催期間：2020年7月18日～8月30日

開催場所：いしかり砂丘の風資料館

共催：小樽市総合博物館

(展示製作・解説執筆：志賀健司)